

平成 25 年 10 月 16 日

がん検診啓発ラジオ放送企画報告書

県民へのがん検診啓発活動として、ROK ラジオ沖縄と沖縄県がん診療連携協議会普及啓発部会がタイアップし、以下の通り実施したので報告する。

➤ がん征圧月間特別企画：ラジオコマーシャルについて

9 月はがん征圧月間であることから、ラジオ沖縄では、9 月 1 日～9 月 30 日の 1 ヶ月間、がん検診の受診を県民へ啓発するラジオコマーシャルを放送した。

➤ がん検診啓発特別ラジオ番組について

制 作：ROK ラジオ沖縄

協 賛：沖縄ヤクルト株式会社他

番組名：「チャットステーション L」

テーマ：「受けよう！ウチナ～！がん検診」

放送日：平成 25 年 9 月 27 日（金）午後 2 時～4 時（120 分）

出演者：パーソナリティー 玉城 美香

ゲスト：宮良 球一郎（宮良クリニック院長）

吉本 多佳子（県立中部病院 看護師）

石郷岡 美穂（琉球大学医学部附属病院 医療福祉支援センターMSW）

聴取者メール応募数： 200 通（当日 150 通）

内 容：聴取者から寄せられる「がん検診」についてのエピソードを基に、「がん検診」を受けることの重要性や拠点病院の相談支援センターの PR 等、専門のゲストを招き解説を行なった。

がん検診と乳がんについて

（宮良クリニック 宮良 球一郎 先生）

がんは検診などで、早期に発見・早期治療で完治する可能性が高くなる。そうすると体へのダメージが少なくなることから、「がん検診」の必要性、早期発見、早期治療の大切さが伝えられた。

乳がんは、早期発見でも乳がんになってから 7～8 年立った段階である。今年 3 年目の乳がんは、2 年後にはわからないけど、4 年後の検診ではわかる、それを 6 年置いてしまうと進行がんになってしまう。2 年に 1 回、がん検診を受けてほしいというのはそこに意味がある。また、マンモグラフィー検診とエコー検診を一度は受けて、自分の体がどんな状態かを知ってほしい。

セルフチェックする方法として、お風呂に入るときに自分の手を使った「石けん法」で、自分のおっぱいの形状を覚えてほしい。自分の「おっぱいを知る」ことが大事だと強く呼びかけられていた。

乳がんは、女性ホルモンの影響を受けるし、皮下脂肪が増える（肥満になる）と乳がんも増える、うちなんちゅう女性は「アジア太っている」との報告もあることから痩せた方がよいと思う。お母さん世代の方は毎

日忙しいとは思いますが、年に1日だけ自分の時間を作って是非検診に行ってほしい。今、乳がんは15人に1人は罹る病気なので、できるだけがん検診を受診するよう呼びかけられた。

がん相談支援センターの役割

(県立中部病院 看護師 吉本多佳子 氏)

(琉球大学医学部附属病院 医療福祉支援センターMSW 石郷岡美穂 氏)

沖縄県には、がん診療連携拠点病院として琉大医学部附属病院・那覇市立病院・県立中部病院の3病院があり、その中に、がん相談支援センターがあるので、そこにいるMSWや看護師をどんどん利用してほしいと呼びかけられた。

検診は、がんにかかっているかどうかを調べるふりであり、安心の保証、自分の体の基礎資料にもなるので、頑張って検診を受けて欲しい。働き盛りの方は、日頃から、自分の健康に関心を持ち、自分自身のためだけではなく、ご家族や身近な人のためにも是非、がん検診を受けてほしい。がんの告知については、ご本人にもご家族にも衝撃的な出来事だが、必ず複数名でお話を聞いていただきたい。必ずしも、相談室においでにならなくても、お電話でも他の病院に通っている方でも、本当に気軽に相談してほしい。

地域の療養情報「おきなわがんサポートハンドブック第3版」は、拠点病院、医療機関・薬局・図書館・公共施設に置いてあり、第2版の内容に加えて「就労支援」「小児がん」「グリーフケア」を加えたので、上手に活用してほしい。

最後に、宮良先生から、セカンドオピニオン～第2の意見を聞くということも、うちなんちゅうの性格では言いにくいかもしれないが、推奨されているし自分納得して治療を受けるためにも必要、それが助かる道です。正しい乳がん検診を受けることが、あなたの未来、沖縄の未来に繋がるのです。吉本氏から、相談してお話しをすることで、自分の考えがまとまり落ち着く事ができるので、お気軽にお越しください。石郷岡氏より、たくさんある情報の中から、正しい信頼性のある情報を、貪欲に収集してってくださいとのメッセージが届けられた。

聴取者からは、「がん検診とがんになった時の蓄えなどを家族と相談しようと思う」「マンモグラフィー検診は痛くないので、是非受けてほしい」等、番組へ対するメッセージが、約200通寄せられた。



